

2012年

1  
月号

# 組合会報

〈発行所〉

埼玉県鍍金工業組合

〒331-0811

さいたま市北区吉野町 2-222-7

TEL 048 (666) 2184

FAX 048 (652) 7631

〈発行人・理事長〉

仁科俊夫

〈編集人・総務委員長〉

井上宣雄

## —今月号の主な内容—

新年の挨拶 理事長 仁科俊夫 ……………2	『表団協セミナー』講演 顧問 島村周作 …… 6
視察研修旅行 ……………3	全国鍍金工業組合連合会 第49回全国大会 …… 8
関東甲信越静ブロック会議開催 ……………5	公害防止管理者研修会開催 ……………9



142号



# 新年の挨拶

埼玉県鍍金工業組合 理事長 仁科 俊夫



新年あけましておめでとう御座います。

残念ながら、人災とも言われている震災から10ヶ月を経過しても復興の進捗状況は芳しくないようであり、災害地の人々の苦労を考えると切ないおもいでいっぱいになる。また、昨年の10月31日にオセアニア外国取引為替市場で1ドル＝75円32銭をつけ戦後最高値を更新した日本は何処へむかうのだろうか。策を高めることなく、責任の所在を転換して、ただリーダーシップ不在を嘆くだけではあまりにもさみしい。

12月の新聞記事によると、東芝の半導体工場の3工場が海外に移転し、シャープも独自のブランドの液晶関連をはじめ薄膜太陽電池工場を国外に生産拠点を移す意向との事。さらに海外から、先端素材産業である炭素繊維等の工場に対してラプコールが盛んであると聞いている。

日本の製造業は競争相手に比べ多くのハンデを背負っていると前号に書いたが一向に改善される気配は無い様で、空洞化は進んでいく。壊滅的な打撃を受ける前に、法人税率低減、電気料金の値下げ、国益を充分に取り組んでFTAの締結、検討の時期はすでに終了したが、TPPは必需である。

さて、新年であるので夢を見たと思います。

国民の90%以上が幸せを感じるという国民総幸福量(GNH)世界

一のブータンはともかくとして、飽食の時代とか、物が売れない時代といわれて久しく、モノが豊かになっていくことは間違いない。しかし、世界人口白書が発表され世界総人口が70億人を突破し、その60%がアジアに、15%がアフリカであった。そのアフリカは現在10億人から2100年には36億人に達する見込みとなっている。これは産業革命が進み食糧不足による若年死亡率の減少、医療の進歩による死亡率の低下が要因と考えられている。しかし、これだけの人口を支えるためには多くのインフラが必要で、現状の延長ではとても賄いきれない。

たとえば電気を考えると、なんと中央アフリカでは90%以上の人が電氣を利用できずにいる。アジアでも比較的恵まれていると云われている人口2億3千万人を抱えるインドネシアでさえ、電化率は

31%以下である。

この電力量だけを採っても、日本からインフラ整備に火力、水力といった従来から活用している技術の輸出も可能であろうし、風力、太陽光、太陽熱等の再生可能エネルギーを使うこの市場の可能性は高い。韓国、中国等のライバルの存在があるが、まだまだ貿易立国としての日本の活躍の場は多く明るい未来が期待できるのではなからうか。



# 視察研修旅行

～神谷理研株式会社 西テクノ工場（静岡県浜松市）～

埼玉県鍍金工業組合は、平成23年10月2日(日)～3日(月)の2日間、視察研修旅行を開催した。初日は山梨県忍野村にある湧水群である忍野八海(おしのはっかい)の観光とし、静岡県浜松市の浜名湖周辺にある館山寺温泉(かんざんじおんせん)にて、長旅の疲れを癒し、2日目は神谷理研株式会社西テクノ工場見学の行程で開催された。

日曜日早朝7時45分大宮ソニックシティ周辺のバス乗り場に集合し、午前8時参加者28名を乗せた観光バスは、一路、山梨県の忍野八海へ出発。

与野ICから高速に乗り、首都高速埼玉新都心線・東京外環自動車道・関越自動車道・首都圏中央連絡自動車道・中央自動車道と5つの高速道路を経由し、河口湖IC



から忍野八海に到着。この忍野八海は延暦19年(西暦800年)～802年)の富士山延暦噴火により、宇津湖が山中湖と忍野湖に分かれ、後に忍野湖が乾き盆地になり、湧水口が池(泉)として残った姿である。富士山の雪解け水が80年の歳月をかけ濾過され、湧水となって8カ所(出口池・御釜

池・底抜池・銚子池・濁池・鏡池・菖蒲池)の湧泉群で、国指定の天然記念物や名水百選に指定され、新富岳百景選定地にもなっている。湧水は長い年月を感じさせるほど透明度が高く、手に触れると冷たく、神秘的な印象を受けた。雄大な富士山の麓で、その美しく幻想的な自然景観に心を洗われ、暫く気を休めて、沼津に向かった。

昼食は沼津で駿河湾産桜エビの天婦羅を頂いた。桜エビは日本国内の水揚げ量の100%は駿河湾産で、主要な漁期は4月から6月までと10月から12月。6月11日から9月30日までは繁殖期にあたり禁漁、冬はエビが深くにいるため休漁である。昼食後、バスは一路宿泊先の館山寺温泉郷へ向かった。バスは午後3時30分頃、本日宿泊をする館山寺温泉 開華亭に

到着した。館山寺温泉は静岡県浜松市西区館山寺町(旧遠江国)にあり、開湯は1985年(昭和33年)で、浜名湖沿岸に温泉街が広がっている。対岸には大草山(標高113m)があり、ロープウェイで渡ることができ、頂上から温泉街を一望できる。近隣には、「はまつフラワーパーク」、「浜松市動物園」、遊園地である「浜名湖パルパーク」、「館山寺」という寺院があり、温泉名の由来である。

宿泊室内から浜名湖を眺められる部屋へ通され、時わすれ開華亭というキャッチコピーの如く、疲れた体を温泉で癒した。その後6時30分から懇親会を開催し、仁科理事長の挨拶から開宴し、楽しい懇親会を和やかに懇談した。

翌日3日(月)午前9時30分に宿泊先を出発、一路視察研修先の「神





谷理研株式会社 西テクノ工場」へバスで向かった。

到着後、最初に神谷社長様よりご挨拶。静岡県鍍金工業組合は77社、浜松支部は33社で、廃業と会社移設で減少傾向にある。浜松鍍金工業協同組合の目的は環境対策としており、環境に関する勉強会、セミナーの実施(法令関係)、講習会の実施(技術関連)、工場視察(優良事業所、異業種の見学)、公害防止パトロールの継続等々を行っている。西テクノ工場は海から

5〜6kmのところであり、また、この地域は東海地震を想定しての操業になるので、地震に対しては敏感である。この西テクノ工場は平成10年から稼働している。浜松はHONDA・SUZUKI・YAMAHAとオートバイ発祥の町として有名であった。昔はHONDAのスーパーカブの生産台数が年間100万台あった。今は海外生産に移行したために0台である。浜松は2輪の町から4輪の町へ移行している。

営業技術部長の神谷様より会社紹介をして頂いた。

創業は昭和29年に個人企業として始まり、「製造技術の開発と向上に努め、快適な環境と豊かな文化の創造に挑戦し続けます」を企業理念とし、自動車部品、エンジン部品、電子機器部品と幅広い分野に對して、めつきを中心とした表面処理加工を事業活動としている。めつき加工としては電気めつき、無電解めつきで、その他にもハー

ドコート塗装、ステンレス部品の電解研磨、合成樹脂塗装、また近年では、環境対応の表面処理加工や新材料への表面処理を中心に研究を行っている。昭和41年(有)神谷鍍金工業所を設立。平成10年西テクノ工場建設。平成16年タイのアウトヤにビー・エス・カミヤを設立。

また環境問題にも力を入れており「資源を活かし、環境を守る」を理念として、環境問題にいち早く取り組んできた。企業活動を行う上で、環境負荷を経営の重要テーマと位置づけ平成12年にISO14001を取得し、その仕組みづくりと従業員一人ひとりのエコマインドの醸成に積極的に取り組んでいる。耐震対策としては補強柱を設置し、漏水対策として、排水を1次ピットに集め、排水処理施設に送り、凝集沈殿方式からマイクロフロー装置に移行している。排水処理異常報知システムの導入、さらには環境報告書の発行をしている、とのことでした。

説明終了後、2班に分かれて工場見学をさせて頂いた。広大な敷地に、めつきラインをキレイに設置されており、管理の行き届いた工場であった。特に環境対策に力を入れているのが伝わり、排水処理装置や漏水対策が非常に優れているように思った。

工場内見学後、仁科理事長よりお礼の言葉を申し上げ、工場前にて記念撮影をし、皆様に見送られながら、神谷理研株式会社 西テクノ工場を後にした。





工場を出発してから、すぐに浜松の老舗である「うなぎ藤田」にて、うなぎを堪能し、次の目的地、焼津おさかなセンターへ向かった。

焼津おさかなセンターのある焼津市は静岡県中部の都市で人口約12万人。古くは明治時代より漁業の発展の地となり、今や遠洋漁業や水産加工業で有名な港町として全国的に知られている。「焼津(やいづ)」とは、日本武尊(やまとたけるのみこと)が東征の際、地元賊郡

に襲われた時、剣で草を薙ぎ払い、火を放って賊を焼き滅ぼしたことが地名起源であると伝えられている。特産品としては駿河湾だけではなく水揚げされないさくら海老がある。また瀬戸川や大井川水系の伏流水に恵まれ、水・米・杜氏の三拍子昔から銘酒を生み出している。各参加者が研修視察旅行最後のお土産を購入した。

その後、焼津おさかなセンターを後にし、DVD鑑賞で楽しい時間を過ごしながら、午後6時頃、大宮ソニックシティに到着、無事に今回の視察研修旅行を終了した。今回、ご参加頂きました皆様、また、お忙しい中、快く視察させて頂きました神谷理研株式会社の皆様、本当に有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。

総務委員

㈱オーク 埼玉工場

及川友明



## 平成23年度関東甲信越静ブロック会議 副理事長 小林 満

去る平成23年10月14日(金)関東

甲信越静ブロック会議が茨城県大洗の大洗パークホテルにて開催された。

本ブロック会議は茨城、千葉、栃木の3県が幹事県で、代表幹事県は茨城である。幹事県を代表して茨城県鍍金工業組合、溝口理事長の挨拶に3月11日の大地震、それ

に続く大津波、宮城、福島、岩手の東北三県の被災状況が大きく報じられているが、ここ茨城も被災県でありその被災程度は決して軽微なものではなく、このブロック会議の開催も危ぶまれたものだった。幸いにして会員の努力で開催することができ、大変感激している。これを機に復興の足取りをより確かなものとし、更なる発展に向けて歩を進めたい。存分に情報交換の場として活用していただきたいと、述べられた。

続いて茨城県各部門からのご祝辞を頂戴した後、全国鍍金工業組合連合会 伊藤 豪会長が挨拶に立ち、今年度のスローガン「今こそ変革のとき、今こそ未来づくりへ」の思いを語られた。折しも100年に一度といわれたリーマンショック、1000年に一度と

いわれる大地震、それによる大震災、原発事故と節電、秋口の西日本豪雨、そして10月からはタイの大洪水、加えて75円が定着しそうな急速な円高と、我々を取り巻く経営環境が一変している。

これまでの価値観や手法では経営が立ち行かなくなることにもなりかねない。まさに、変革のときであり、未来づくりに着手しなければならぬときなのであろう。いまをチャンスと捉え希望をつなぐ土台を築いていこうと語った。

全鍍連報告を、近藤専務理事より「めっき工場の危機管理」と題して行われた。

今年3月の大地震の直後の現地調査の結果を踏まえて、めっき工場の危機管理はどうあるべきかを検討しまとめたもので、詳細は23年度のめっき要覧に特集として掲載しているので参考にしていただきたい。

次期幹事代表県を静岡に決し会議を終了した。

その後 講師に水戸史学会理事、事務局長の「但野 正弘」氏をお迎えし「水戸黄門に学ぶ 人生の教訓」と題し黄門の人となり、テレビドラマの逸話なども交えながら黄門の説いた(生活の心構え)(人の道の重さ)(仕事の心構え)などをお話いただいた。

その後会場を懇親会場に移し大いに情報交換をして閉会となった。

当組合からは仁科理事長をはじめとして8名が参加をいたしました。



## 『表団協セミナー』講演

### 〈ヒトから人間へ〉

埼玉県鍍金工業組合 顧問 島村 周作(周慶)



人間は生まれた時は『ヒト』であり人間ではない。

『ヒト』は動物であり、犬や猫、ライオン等と同じである。しかしヒト以外の動物は、食欲も、性欲もすべて自然の掟にコントロールされる。例えばライオンは、満腹している時には、眼前により好物である動物がいてもそれを、殺したりすることはほとんどない。一方『ヒト』は魚を採るにしても、余り手加減をせずに採り過ぎて腐らせることがま々ある。従って『ヒト』は自然を破壊する動物でもある。依って『ヒト』は自分で欲望等をコントロールしなければならぬ。比れが出来ない『ヒト』を佛教では、餓鬼と云い人間ではないとされる。

『ヒト』を人間に育てる為には、人格を持たせねばならない。それには、宗教が必要となる。『ヒト』を教育するのはその為であり、その根幹は、知育、体育、徳育の三つである。現在、知育、体育は充分過ぎる配慮がなされているが、徳育については、ほとんど無視されているのが現状である。

最近犯罪が急増しているが、以





前は今ほど多くはなかったと思う。親殺し子殺し等は、滅多に起こらなかったし、他の動物ではほとんど起こり得ない。因に江戸時代の、ある期間の約六十年間をみても、殺人事件が一件も無かった事実があるし傷害事件が少しあっただけである。人々にとって、今より遥かに、安全な時代であった。この様な事態になったのは、戦後徳育を無視したが故である。

徳育とは、道徳教育のことであり、それは、自分の行動を正しく行

い人間の良い行いのもとになるものである。

ところが、戦後、米国を初めとする連合国に渡り我が国を弱体化すべく、軍国主義に繋がると云う詭弁によって、廃止同然となり、その上、よく確かめずに一部の日教組や進歩的文化人と称する人たちが支持した為と思う。

それでも、徳育を受けた時代の人々が、在間に残っている間は良かったが、時代を経るにつれて亡くなる方々が増えるに従い、世相は悪くなる一方である。一部であるが、国民の模範であるべき政治家をはじめ、教師や警察官ですら罪を犯す事態になってきている。

さて、徳育(道徳)の根幹は宗教であり、哲学とは深い関係にある。人間と動物との違いは哲学をもっているかないかであり、哲学つまり宗教を持たないのは人間ではないとされている。特に外国では、例えばイスラム教国では、無教祖者は、極悪人とされている。その一

方では、宗教とは云えなり怪しげなものも多く存在している。例えば、お金が儲かるとか病気が治ると云って勧誘するのは、全て邪教と判断して差し支えない。ましてや国や社会を改革する為と称するものは最悪である。

さて、話が変わるが、科学の本来の意味は、差別区別する学問であり、明治維新後に我が国に入りついて来たものである。例えば、動物、植物等を有害か有益かに区別することであり、昆虫を害虫、益虫に区別する学問である。

我が国に科学が導入される以前は佛教の涅槃經にある。一切衆生悉有仏性という言葉があるが、これは、有害無害と差別せず、全て世の中で必要なものと教えている。又般若心經の中で、色即是空、空即是色という言葉があるが、これも前述の通り、奇麗なもの、汚いものと区別するのは間違いで、本来差別すべきでは無いと教えている。例えば、お茶を飲んだ時、急須に

残っている茶殻は、ゴミとして捨てられるが、よく考えてみると茶殻は熱消毒されていて本来奇麗なものだから、ゴミ(廃棄物)とするのは間違いで、以前の我が国では、ゴミとせずに利用されていた。

この様に考えれば、産業廃棄物は存在せず使い方、考え方に余って有益な原料となる。

今、エコロジーの時代と云われているが、その原点は、我が国の佛教の教義の中にあり、まだまだ有益な教えが数多くあるが、紙面の制約で此れで終了とします。

11月4日(金)

東京都中小企業振興公社

秋葉原庁舎に於いて

# 第49回全鍍連全国大会に出席して 副理事長 石下一明

平成23年11月25日(金)午後2時より東京芝の機械振興会館にて第49回全国大会が、地下2階ホールにて第一部式典、第二部懇親会は6階で出席者多数のもとで行われました。

④全国めつき技術コンクール表彰(224件)  
厚生労働大臣賞(3社)  
研磨装飾クロームめつき部門  
埼玉県で(株)甲斐野テックスの久津間勝明氏が受賞

第49回全国大会宣言は伊藤豪会長より「変革の時・未来づくりへ」副題として未来を拓く・創造めつきをスローガンとする事「もづくり」は「ひとつづくり」を前提とし、確かな技術継承と情報伝達をし「環境との共生」を基軸に「未来づくり」を目指した鍍金技術を作りたいとの説明が有りました。

この席で過日組合の研修旅行で工場見学をさせていただいた静岡の神合理研の社長とお話をしました。タイ工場が私達の見学した10月3日翌日より浸水が始まり工場の設備類が水没し、今現在11月25日では工場内はひざ上位、塀の外は腰位で水が完全に引くのは12月中旬の見通しとの事でした。1日も早い復興をお祈りするとともにお見舞い申し上げます。

式典は、国家斉唱、東日本大震災の被害者の御冥福を祈り黙祷、主催者代表で、伊藤豪会長が挨拶し大会が始まりました。

全国鍍金工業組合連合会会長賞  
銅賞  
装飾クローム部  
(株)真工社 幸手チーム  
本社チーム

出席者全員の賛同により宣言案が採択され 鈴木・姫野、両顧問による万歳三唱で第一部を終了しました。

尚埼玉組合からは仁科理事長・小林・石下副理事長・吉田専務理事・井上・饗場・矢嶋常任理事の7名の参加でした。

## ①特別功労賞表彰(1名)

現職の大阪府立産業技術総合研究所業務推進部長工学博士の横井昌幸氏(国等の調査研究、技術開発事業とめつき業界の技能技術向上及び人材育成への貢献等で表彰)

## ②組合功労役員表彰(8名)

(有)池澤鍍金工業所  
(有)小築鍍金工業所

⑤卓越した技能者表彰(1名)  
愛知県：(有)三貴工業佐藤寿訓氏が受賞

第二部は懇親会となり伊藤豪会長の挨拶に続き来賓の経済産業省製造産業局非鉄金属課課長、全国中小企業団体中央会他の祝辞があり、乾杯の後祝宴となり皆和氣

## ③環境整備優良事業所表彰(7名)

埼玉県では私共の(株)明光社が表彰されました。

## 告

⑥第48回全国大会決議事項経過報告  
全鍍連近藤専務理事による報告

あり、乾杯の後祝宴となり皆和氣 満々の内に宴も進み、中締め後名譽顧問島村周作様他の2名の万歳



# 『公害防止管理者 研修会を開催』 環境委員長 出野哲也



平成23年10月6日(木)午後1時30分より埼玉会館にて、事業所責任者及び公害防止管理者を対象に研修会を開催した。

出野哲也環境対策委員長の司会で、石下一明副理事長の開催の辞に続き、小林満副理事長が次のように挨拶した。

「この公害防止管理者研修会は、皆

様に集まっていた日頃の環境活動を再認識していただき、事故防止それから新しい技術の研鑽等と多岐にわたって研修していただき、新たな環境活動に従事していただきたいという目的を持って毎年開催しております。

本年は3月11日の大震災に続いて計画停電等、排水処理を担当している皆様には大変ご苦労の多かった年かと思っております。ただおかげさまで大きな事故の報告もなく無事に推移しているようです。これも皆様方の努力の賜物と厚く感謝しているところでございます。

今般、ほう素・ふっ素・硝酸性窒素等の暫定排水基準と同じように、亜鉛もまた暫定排水基準の適用期限が延長されました。これもひとえに環境関係機関の皆様のご

協力それから全鍍連のご協力の賜物と心から感謝を申しあげます。ただ、このことに安心するのではなくて今日から新たな気持ちをもつて新しい基準に対応出来るように、ぜひご努力をお願いしたいと思います。」

続いて、埼玉県環境部水環境課課長の金子昌一郎様よりご挨拶を頂きました。

**第一講演**  
「最近の水環境行政について」  
講師 埼玉県環境部水環境課 主査 田島 尚氏  
講演内容  
1、最近の動向

①水質汚濁防止法の改正  
・排出水の測定結果の未記録、虚偽の記録等に対する罰則の創設

- ②「異常水質事故」の範囲の拡大 新たに「指定物質」を規定
- ③事業者の責務規定の追加
- ④環境基準の見直し
- ⑤重鉛に係る暫定排水基準の見直し
- ⑥第7次水質総量規制
- ⑦埼玉県生活環境保全条例の改正



2、環境管理事務所の業務について

第二講演

「最新化学物質規制と化学物質管理システム」

講師 株式会社アイリーステム  
東京連絡事務所

所長代理 遊佐 紳郎氏

講演内容

1、化学物質規制について

①これまでの主な化学物質規制

及び罰則について

② REACH 規制、ROHS

指令、化審法について

③めっき材と化学物質規制につ

いて

④ JAMP の最新動向

2、効率の良い化学物質管理シス

テム「GCFM」のご紹介

第三講演

「水・環境について」

講師 環境省 水・大気環境局水

環境課

課長補佐 星野 徹氏

講演内容

1、水質汚濁防止法の概要

2、環境基準の検討状況

3、今後の課題

4、東日本大震災

5、除染特措法関連



公害防止管理者  
再教育研修会を開催

環境委員長 出野哲也

平成23年12月8日(木)に埼玉県

鍍金工業組合事務所内の会議室に  
おいて、10月に開催された公害防

止管理者研修会に都合で参加する  
事の出来なかつた事業所を対象

に、再教育研修会を開催した。

当日は10月に開催された講習会

のビデオ上映を行い公害防止への  
再認識と理解をして頂きました。

当鍍金組合の公害防止管理者の環  
境・公害等への関心の高さと前向

きな姿勢は今後とも継続して頂  
きたいと思っております。来期以

降も各事業所並びに関係各位のご  
協力のもと年一度の教育研修に

100%ご出席いただけます様  
ご協力の程宜しくお願い致しま

す。

訃報

大松 武之さん

(有)大松表面加工所

代表取締役社長

平成23年10月4日 逝去

享年73歳

編集後記

表紙の写真は忍野八海です。

交通

電車 JR中央線「大月」駅から富

士急行線「富士山」駅(50分)より

バスで忍野村(25分)

車 東名高速御殿場ICから国道

138号(30分)

中央道河口湖ICから国道138号

(10分)

印刷

保証企画工芸株式会社

〒110-0012

東京都台東区竜泉1-4-3

TEL 03(3875)1641